資 料 提 供

令和7年(2025年)7月25日公表
政策企画部統計課企画分析グループ
担当　大曽根・北原　029-301-2642

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和７年６月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状況を３か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。
この度、令和７年６月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1　調査結果

～ 現状は2期連続で50を下回り、先行きは5期連続で50を下回った～

区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI	
	６月調査結果	前回調査との差	６月調査結果	前回調査との差
県全体	44.7	△0.1	45.0	△0.3
県北	43.6	+4.1	44.7	+2.3
県央	44.4	△2.6	44.9	+2.8
鹿行	43.5	△3.4	44.6	△2.8
県南	43.1	△3.0	41.5	△2.9
県西	49.0	+4.6	49.0	0.0

※DI(Diffusion Index)

景気動向を判断するために使用される指標の１つ。景気の方向性（景気が上向きか下向きか）を見るもの。
本調査では、回答を５つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比（%）で乗じてDIを算出している。

＜参考＞
DI値50超　：上向き
DI値50　　：横ばい
DI値50未満：下向き

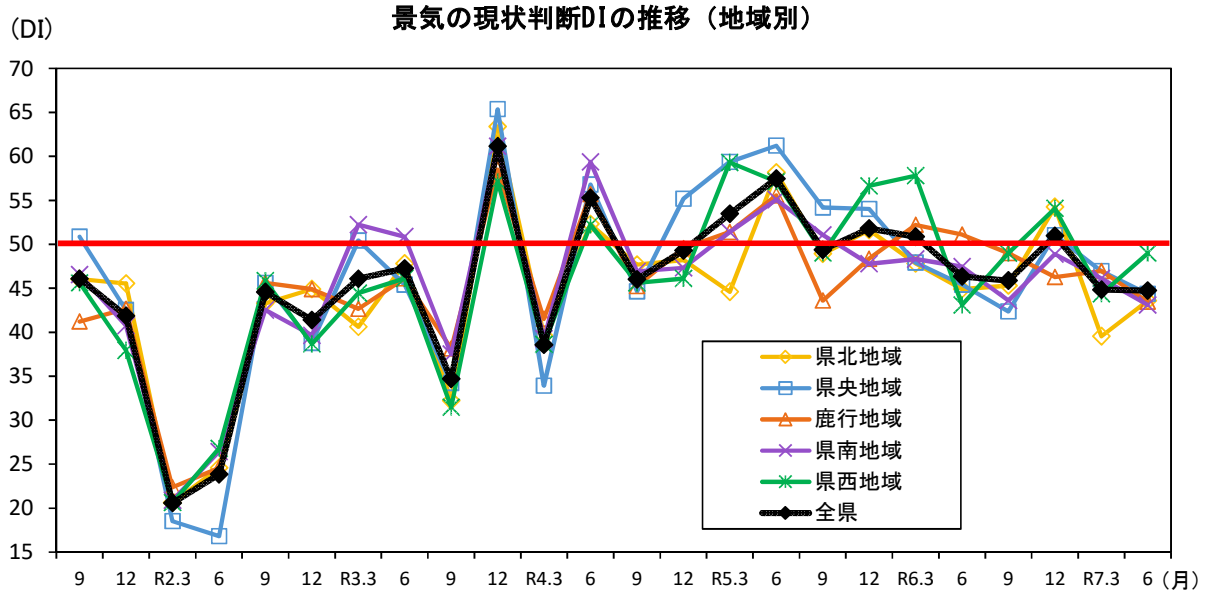
☆ここがポイント

○県全体の景気の判断DIは、現状は2期連続で50を下回り、先行きは5期連続で50を下回った。

○地域別では、県北地域のみ現状・先行きとも前回調査を上回ったものの、全ての地域で50を下回った。
分野別では、企業関連のみ現状・先行きとも前回調査を上回ったものの、全ての分野で50を下回った。

○ウォッチャーからは、物価高や米価高騰、トランプ関税に関するコメントが多く寄せられた。

景気の現状判断DIの推移（地域別）



〔調査の概要〕
- 調査客体数 … 県内５地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに50名、計250名。
- 調査内容 … ３か月前と比較した現状及び３か月後の先行きの景気の判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の５択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- 調査時期 … 四半期（６、９、12、３月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間:令和７年６月５日から20日まで）
- 回答率 … 95.2%〈250名中238名から回答〉

（地域区分）県北地域:日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域:水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域:鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域:土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域:古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

〈参考〉

現状判断回答構成比

回答＼調査年月	令和６年６月	令和６年９月	令和６年12月	令和７年３月	令和７年６月
良くなっている	3.8%	1.6%	3.4%	4.0%	0.8%
やや良くなっている	17.5%	17.3%	24.6%	16.3%	17.2%
変わらない	45.0%	49.0%	49.2%	43.2%	47.9%
やや悪くなっている	27.9%	27.2%	18.2%	28.2%	28.2%
悪くなっている	5.8%	4.9%	4.7%	8.4%	5.9%

先行き判断回答構成比

回答＼調査年月	令和６年６月	令和６年９月	令和６年12月	令和７年３月	令和７年６月
良くなっている	1.7%	0.8%	0.8%	2.2%	0.4%
やや良くなっている	19.2%	22.6%	20.3%	16.7%	16.0%
変わらない	52.9%	50.6%	48.3%	47.1%	52.5%
やや悪くなっている	22.1%	22.2%	24.2%	27.8%	25.2%
悪くなっている	4.2%	3.7%	6.4%	6.2%	5.9%

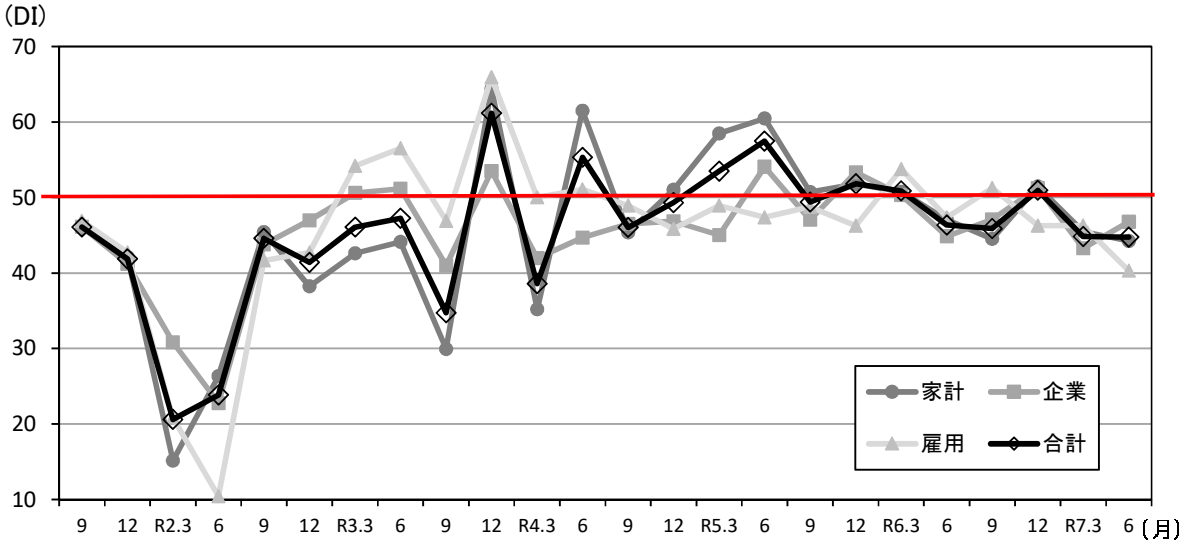
２　分野別の動向

（１）現状判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より1.3ポイント低下し、２期連続してに50を下回りました。
企業動向関連DIは、前回調査より3.6ポイント上昇したものの、２期連続して50を下回りました。
雇用動向関連DIは、前回調査より6.0ポイント低下し、３期連続で50を下回りました。

分野＼調査年月	令和６年６月	令和６年９月	令和６年12月	令和７年３月	令和７年６月
合　計	**46.4**	**45.9**	**51.0**	**44.8**	**44.7**
家計動向関連	**47.0**	**44.5**	**51.5**	**45.5**	**44.2**
小売関連	43.3	37.5	44.6	44.2	43.4
飲食関連	47.2	46.9	46.9	48.2	42.2
サービス関連	47.9	48.4	57.0	42.4	45.9
住宅関連	63.9	58.3	61.1	71.9	41.7
企業動向関連	**44.9**	**47.1**	**51.3**	**43.2**	**46.8**
農林水産業	56.3	42.9	56.3	41.7	43.8
製造業	37.5	43.8	48.8	37.5	46.2
非製造業	51.7	52.5	53.3	51.8	48.3
雇用関連	**47.4**	**51.3**	**46.3**	**46.3**	**40.3**

景気の現状判断DIの推移（分野別）

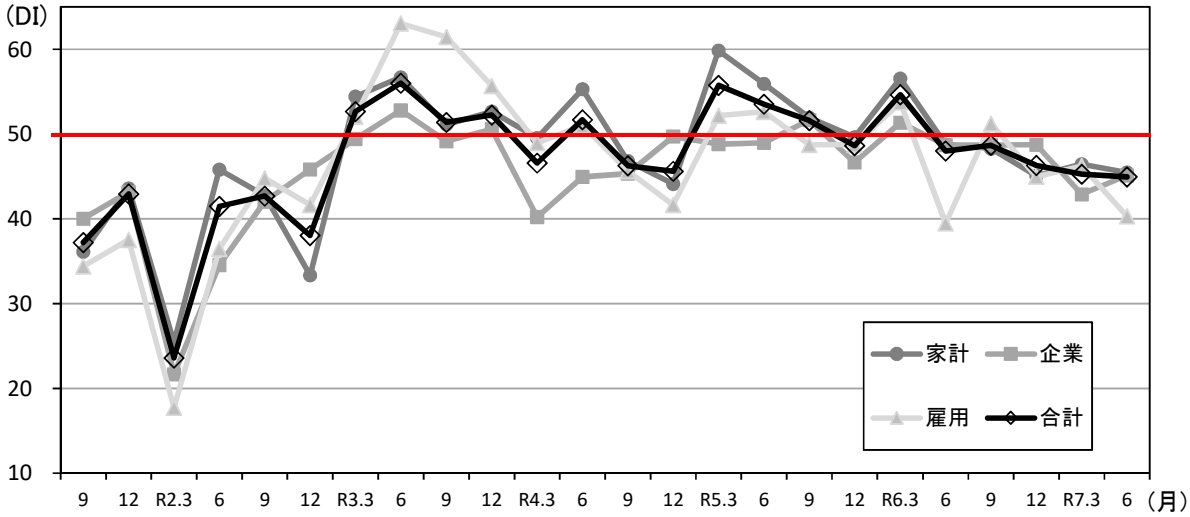


（２）先行き判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より0.9ポイント低下し、５期連続で50を下回りました。
企業動向関連DIは、前回調査より2.2ポイント上昇したものの、５期連続で50を下回りました。
雇用動向関連DIは、前回調査より6.0ポイント低下し、３期連続で50を下回りました。

分野＼調査年月	令和６年６月	令和６年９月	令和６年12月	令和７年３月	令和７年６月
合　計	**48.0**	**48.7**	**46.3**	**45.3**	**45.0**
家計動向関連	**48.8**	**48.3**	**45.1**	**46.4**	**45.5**
小売関連	43.8	44.8	44.6	47.1	44.3
飲食関連	55.6	51.6	43.8	44.6	45.3
サービス関連	52.9	49.6	46.3	47.5	48.0
住宅関連	38.9	55.6	41.7	37.5	36.1
企業動向関連	**48.7**	**48.7**	**48.7**	**42.9**	**45.1**
農林水産業	56.3	46.4	46.9	41.7	46.9
製造業	49.4	46.9	44.5	42.5	43.6
非製造業	45.8	51.7	55.0	43.8	46.7
雇用関連	**39.5**	**51.3**	**45.0**	**46.3**	**40.3**

景気の先行き判断DIの推移（分野別）



３　ウォッチャーのコメント抜粋

（１）県北地域

①　現状判断：　景気の現状判断DIは43.6となりました。前回調査より4.1ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を２期連続で下回りました。

- （スーパー）4月の後半くらいから客数が少し回復し、前年に近い数値になってきている。客単価も商品の値上げ等に伴い伸びている。また、今年は6月なのに最高気温が30度を超える真夏日が続いており、夏物が好調に動いているため、やや良くなっていると判断した。
- （公共職業安定所）「年金だけでは生活できない」「孫にお小遣いをあげたい」という理由から、定年や期間満了等で退職した60歳以上の求職者が増加している。対して、求人数が少ないこと、雇止め規定があること等により紹介に至らないケースが多いため、やや悪くなっていると判断した。また、若者の求職者は、当所以外にも仕事探しのツールが多いことから求職者数が減少している。

②　先行き判断：　景気の先行き判断DIは44.7となりました。前回調査より2.3ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を５期連続で下回りました。

- （ゴルフ場）インバウンドの引き合いが多く、引き続き好調の兆しがあるため、やや良くなっていると判断した。
- （非製造業(その他)）エンドユーザーの投資意欲から、開発予算の減額が想定されるため、やや悪くなっていると判断した。

③　特徴的動き

- （写真店）少子化により、当店に関わりのあるこども園、幼稚園、保育園等の経営状況は総じて悪化しているようだ。しかし、そのような厳しい状況だからこそ、特徴的な企画を立案・実行することで独自性を保ち、棲み分けが成立しているように感じるので、とても参考になる。
- （林業関係者）所得が上がらず、動力・光熱費及び食費等の高騰が続き、業界的にも我慢時と割り切っている。経営として成り立つ最低価格保証等があれば、安定的に経営も拡大できると思う。

（２）県央地域

①　現状判断：　景気の現状判断DIは44.4となりました。前回調査より2.6ポイント低下して、横ばいを表す50を２期連続で下回りました。

- （都市型ホテル）総会シーズンとなり、例年の利用客（団体や企業等）は変わらず予約が入っているが、人数や内容（料理や飲料等）を縮小するところもある。全体の予約件数も昨年と比較し減少しているため、やや悪くなっていると判断した。総会をWEB通信のみで行うところもあるという話で、来年以降の予約状況が心配される。
- （求人広告）倒産や閉業の話を複数耳にしたため、やや悪くなっていると判断した。

②　先行き判断：　景気の先行き判断DIは44.9となりました。前回調査より2.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を５期連続で下回りました。

- （楽器販売店）これまでマスクをしている時にはできなかった管楽器の演奏やコーラス等ができるようになった。半年～1年前に注文していた商品の納品も進んできている。自分時間を取り戻す動きが始まったということは、外食や旅行など他の業界でも良い動きに繋がるのではないかと思うので、やや良くなっていると判断する。
- （運輸業）円安や備蓄米の影響により流通量は増加しているが、人手不足のため、やや悪くなっていると判断する。

③　特徴的動き

- （商店街代表者）材料の値上げや労働力不足が原因で、工事が伸び伸びになっているところが目に付く。
- （金融業）駅前を中心にマンション開発事業が行われており、販売状況も好調の様子である。しかし、購入者は県外の投資家等が多く、地元住民の消費が増加しているわけではない。

（３）鹿行地域

① **現状判断：** 景気の現状判断DIは43.5となりました。前回調査より3.4ポイント低下して、横ばいを表す50を４期連続で下回りました。

・（小売業(薬品店)）この時期は風邪等の患者も減少し処方箋が少なくなってくるため、売上げは2～3月と比べて70%ぐらいしかない。よって、やや悪くなっていると判断した。最近の傾向として、簡単な症状の場合はドラッグストアで市販薬を購入する方が増えてきていると感じる。

・（建設業）受注が伸び悩んでいるため、やや悪くなっていると判断した。新築ではなく改修し延命対策をする方向にシフトしている。

② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは44.6となりました。前回調査より2.8ポイント低下して、横ばいを表す50を５期連続で下回りました。

・（製造業(その他)）客の販売予測では、今後徐々に国内受注が減ると予想されているため、やや悪くなっていると判断する。輸出先の関税の状況も、中国などの競合国と比較して有利になるのか不利になるのかなど不透明な部分があり、海外向け製品は客も慎重に発注を入れてくる。

・（求人開拓員）ハローワークを訪問した際、4月の求職者数が前年比10%近く増えていると聞いた。中でも65歳以上の求職者が多いらしい。詳細は不明だが、製鉄所の高炉休止に伴い、関連事業者で雇止め等が起こっている可能性が推測される。そのため、今後は景気がやや減速するものと判断する。しかし地域の事業所を訪問してみると、スキルを持った比較的若い人材の採用意欲は旺盛である。

③ **特徴的動き**

・（レジャー施設）メロンのシーズンに入り、直売場にはメロンを買い求める客が多く見られた。テレビや新聞の影響も大きいと思われる。

・（運輸業(道路貨物運送業)）地元製鉄所が高炉休止に伴い従業員を削減したため、朝の交通量が減った。

（４）県南地域

① **現状判断：** 景気の現状判断DIは43.1となりました。前回調査より3ポイント低下して、横ばいを表す50を７期連続で下回りました。

・（タクシー運転手）コロナ禍明けで上向きになった売上げも、ここ数か月は前年比で横ばいか若干下回る状況である。物価高により利用を控えている客が多い印象のため、やや悪くなっていると判断した。特に夜の飲食店からの依頼が減っている。逆に日中の客数はさほど変わらない。

・（不動産業）広告物件への反響が少なくなっている。また、ハウスメーカーからの問合せも少なくなっているため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは41.5となりました。前回調査より2.9ポイント低下して、横ばいを表す50を５期連続で下回りました。

・（設計事務所）資材の値上がりと建築確認申請の複雑さにより新規着工ができず、資金が回らなくなった工務店の倒産や廃業の増加が懸念されるため、悪くなっていると判断する。

・（学校就業関係者）自動車部品関係の企業からは業績が振るわないと聞くが、半導体製造関係の企業と話をしたところ、生成AI関連の部品製造発注が非常に多く、売上げも右肩上がりと言っていたため、トータルでは変わらないと判断する。

③ **特徴的動き**

・（衣料品販売店）接触冷感素材の製品や太陽光を遮る商品を買い求める客が増えている。低単価で付加価値のある商品を着用することで、電気を使わずに体調管理をする方が増えていると感じる。

・（都市型ホテル）客室の料金をAIが決めるプランを導入する予定である。今後は近隣のホテルの価格をAIが学習し販売していくことになるので、売上げが上がることを期待したい。

（５）県西地域

① **現状判断：** 景気の現状判断DIは49.0となりました。前回調査より4.6ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を２期連続で下回りました。

・（クリーニング店）季節要因もあるが、前年同月と比較しても動きが活発になっているので、良くなっていると判断した。

・（製造業(金属製品)）地域の同業他社（特に自動車関連）は、残業がなくなっている様子である。設備関連も同様であるため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断：** 景気の先行き判断DIは49.0となりました。前回調査より変わらず、横ばいを表す50を３期連続で下回りました。

・（製造業(化学工業)）米国の景気やトランプ関税の動きなどに不透明感があるものの、客からのフォーキャスト（業績目標管理）はほぼ横ばいの見通しとなっている。生成AI向などは比較的良いが、自動車向などの動きは鈍く、全体としては大きな変化はないと予測されるため、変わらないと判断する。

・（人材派遣業）自動車関係で将来的な落ち込みを懸念して採用の引き締めがあることに加え、海外向け物量の減少や人件費高騰に伴う人件費削減など、あまり良い材料がないため、やや悪くなっていると判断する。

③ **特徴的動き**

・（旅行代理店）アメリカ、イスラエル、イラン情勢が海外経済に影響する恐れがある。原油高による航空燃油サーチャージやバス会社の経営に影響するのを心配している。

・（金融業）圏央道周辺の地価が高騰しているため、圏央道から一定の距離が離れた場所に物流倉庫の需要が見られる。

（６）多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

①「物価高、値上げ」に関するコメント 247件（県北：51 県央：56 鹿行：52 県南：45 県西：43）

・（道の駅）商品の値上げが止まらないので、これからも消費は冷え込むと思う。よって、やや悪くなっていると判断する。賃上げが行われても値上げ分に吸収されてしまうので、中々生活が豊かにならない。

・（製造業(精密機械器具)）取引先の値上げが相次いでいる。オイル系や材料系は特に顕著だが、消耗品類に関しても値上がりが著しい。どんなに節約しても価格上昇が上を行き、節約の意味がない。品質を維持しつつ代替品や類似品、購入先などを常に模索し続けている。

②「米価高騰、備蓄米」に関するコメント 104件（県北：13 県央：25 鹿行：21 県南：24 県西：21）

・（小売業(米穀)）電話、メールでの問合せが毎日多数くる。そのほとんどが「備蓄米販売してますか」「入荷する予定ありますか」「一番安い米はいくらですか」と言う内容である。皆、安価な米を探しているようだ。

・（農業関係者）米価調整の原動力でもあった飼料用米の作付けが大幅に減少し、主食米への作付け転換が大きく進んでいる。8月上旬から新米の出荷が始まると思われるが、取引業者からの価格交渉については進展が鈍い。備蓄米の放出により米価の動向は落ちついてくると思われるが、7年産米の価格がどのようになってくるかが見通せない状況なので、変わらないと判断する。米の適正価格について消費者の理解醸成がどこまで得られるか、今後の情勢変化に一抹の不安を感じている。

③「トランプ関税、関税交渉」に関するコメント 75件（県北：15 県央：23 鹿行：6 県南：16 県西：15）

・（製造業(電気機械器具)）米国の関税がどのような影響をもたらすのかが不明で不安である。大型電気機械のガスタービンは良いとの情報がある一方で、建機や産業機器については良い情報がない。

・（製造業(非鉄金属)）トランプ関税による影響が少しずつ表面化し、輸出産業の業況は徐々に悪化すると思われるため、やや悪くなっていると判断する。今後の決算見通しを設定しないメーカーもあり、予測不能な状況である。

（注）より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。
https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html